

牛久市文化芸術振興審議会議事概要		日時	令和5年12月11日（月曜日）
件名	第2回 牛久市文化芸術振興審議会	場所 時間	ひたち野リフレ4階 第2会議室 14:00～14:40
作成年月日	令和5年12月13日（水曜日）	作成者	文化芸術課：鈴木
出席者	(出席委員) 後藤雅宣会長、齊藤泰嘉副会長、磯上朋子委員、上仲典子委員、永井博委員、板東與實委員、宮地正人委員、宮本芳子委員(計8名) (事務局) 木本文化芸術課長、山越課長補佐、宮田課長補佐、飛鳥川主査、鈴木主査(計5名) (傍聴者) 0名 <div style="text-align: right;">(順不同)</div>		
	議事内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度文化芸術事業の評価について 	
会 議 内 容 等			
<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>「令和4年度文化芸術事業の評価について」</p> <p>①文化芸術振興審議会の役割について説明の上、資料「令和4年度計画進行評価(案)」内容の説明</p> <p>(後藤会長) 文化芸術課の令和4年度の事業に対して各委員から評価を行っていただき、評価表にまとめているが、事業内容が多岐にわたるため、補記という形で補足文を追加している。今年度は牛久市総合計画第4次前期の第3年目に当たり、総合計画第3次の時期から数えて今回で7回目の作業となる。この作業はPDCAサイクルに基づき、市の事業の自己改革のために市から文化芸術振興審議会に委嘱されて実施しているものである。</p> <p>令和4年度の事業については、新型コロナウイルスの影響が終息に向かいつつあるも引き続きその制約を受けた中での施策実績に対する評価となるが、概ね順調に進められてきたことが確認できる。施策の個別評価について昨年度との比較を行ったところ、「次世代を担う人材を育てる」・「郷土の歴史に親しむ環境を創出する」・「文化芸術コミュニティの形成を促進する」のポイントが上昇したが、「文化芸術資料を未来に残す」・「広報を強化する」については下降している。「活動拠点の整備を進める」については、自己評価・審議会評価ともに昨年度から下降しているが、全体的な評価としては、審議会による評価は担当課の自己評価よりも上回っている。</p> <p>質疑／応答なし。</p> <p>②資料「令和4年度計画進行評価(案) 補記」</p> <p>(1)内容の説明</p> <p>(後藤会長) 令和4年度の評価と過去の評価を比較して、どの様な傾向が読み取れるか10の視点</p>			

から検証した。それらを概観すると、「人を育てる」、「伝える」、「つなぐ」、「支える」の4つの大施策の下に12の中施策が存在しており、「人を育てる」、「伝える」に含まれる中施策への評価は概ね向上していることが見て取れるが、「つなぐ」、「支える」に含まれる中施策については、目標の実現性・妥当性ともに評価にブレがみられ、今後の改善の余地を残している。

とりわけ、その難しさが際立って見えるのは、「文化芸術資料を未来に残す」、「広報を強化する」、「活動拠点の整備を進める」の3つの中施策であり、行政における目標設定の難しさも想像されるが、これまでの評価が概して低い傾向があり、行政の管理上の今後の重点的課題の一つとして受け止める必要がある。

以上の説明について、質問・意見があればお願いしたい。

(宮地委員) 後藤会長の指摘された3つの中施策における課題については、行政自身についても難しさを感じていると思われる点であり、審議会において指摘を行っても、実行することは難しいのではないかと考える。行政側で市の上層部へ意見を提出する等の対応を取らなければ、今後もこの課題は繰り返されると考える。行政が努力しても上手くいかない問題が多すぎると感じている。

(後藤会長) 宮地委員のご指摘については、その通りであると考えている。

12の中施策は、齊藤副会長が当時会長であった時に時間をかけて作り出したものであり、その評価方法については当時の市職員と協議した結果、現行のレーダーチャート方式で行うこととしたが、この方法の課題は、12の項目の重要度がすべて同じ比重に見えることである。各施策をすべて同じ比重で実施すべきであるとは定められておらず、本来は活動に入る以前に、どの施策を重点的に行うかの判断を、審議会に諮問するか審議会と担当課で協議する必要がある。この点については当初から申し上げているものの変更されずに続いているが、そろそろ見直しを行うべきではないかと考える。現在の評価方法では、実現が難しいと思われる施策も等しく実施しなければならない様になっている。

(磯上委員) 後藤会長の指摘される実現が難しいと思われる施策とは、具体的にどの様なものか。活動の拠点の整備が難しいということか。

(後藤会長) 個人的な見解であるが、例えば「次世代を担う人材を育成する」については、行政は教育機関ではないので、行政側に努力を求めるのは酷ではないかと感じる。この点は過去も議論になったことがあり、文言の解釈をどう捉えるのかによっても変わってくるが、定義の共有が行われていない為、個人の解釈の仕方によって評価の仕方も変わってくる。「広報を強化する」については行政の側で対応可能な分野であると考えているが、「企画力を育てる」や「人材を育成する」といった施策については、行政で対応するのは難しいのではと感じる。

(2) 「令和4年度計画進行評価(案)」・「令和4年度計画進行評価(案) 補記」についての承認

(後藤会長) ご承認いただけるかお諮りしたい。

(委員) 全員承認。

(後藤会長) 承認を諮り全員承認を得たので、それぞれ(案)を削除し、正式に「令和4年度計画進行評価」・「令和4年度計画進行評価 補記」とする。

3. その他

①第1回審議会において各委員から頂いたコメントについての経過報告について

(事務局) 磯上委員から頂いた高齢者・障がい者に対する施策が少ないが今後どのように展開する計画なのかとのコメントについて、現在美術の分野において福祉施設の障がい者や高齢者に対して、来年初頭にボールアートのワークショップが実施できないか調整中である。また、齊藤副会長から頂いた他部署と連携した事業について資料に記載すべきとのコメントについては、今後該当する事業について対応していく予定である。

②今後の事務の進め方等の説明

(事務局) 令和4年度の事業評価につきましては、今回の審議会にて終了となる。今後については、文化芸術振興基本計画の施行期間が令和7年度までとなっており、令和8年度からの第2期文化芸術振興基本計画の策定に向けても、作業を進めていきたいと考えている。事務局内で第2期文化芸術振興基本計画で実施する施策等の検討を行い、次年度以降、委員の皆様にもご意見を頂きたいと考えている。

(上仲委員) 行政で実現する事が難しい施策や、行政に任せて良い施策なのかについてご意見があったが、文化芸術振興審議会の役目は、施策の実現に向けて行政をサポートすることではないかと思う。

4. 閉 会